

2023年[令和5年]

4月1日(土) - 12月24日(日)

Donald Keene Center Kashiwazaki 2023 10th Anniversary Memorial Exhibition

Takahashi Yoshiki



ドナルド・キーン・センター 柏崎 開館10周年記念特別企画展

Donald Keene

# 未来への伝言

Message to the Future

— From Iroquois Point POW Camp —

The Pacific War of Takahashi Yoshiki and Donald Keene



ドナルド・キーン・センター 柏崎 DONALD KEENE CENTER KASHIWAZAKI

主催：公益財団法人ブルボン吉田記念財団  
後援：新潟県教育委員会、柏崎市教育委員会、新潟日報社、毎日新聞新潟支局、読売新聞新潟支局、産経新聞新潟支局、朝日新聞新潟総局、日本経済新聞新潟支局、共同通信社新潟支局、時事通信新潟支局、NHK 新潟放送局、BSN 新潟放送、NST 新潟総合テレビ、TeNY テレビ新潟、UX 新潟テレビ 21、FM 新潟 77.5、柏崎日报社

◆本展を開催するにあたり、下記の皆様にご協力を賜りました。  
ここに名前を記して心より感謝申し上げます。(敬称略)

特別協力：高橋幸子、高橋美加子  
協力：個人 アン・ケリー、伊藤礼、キーン誠己、ジャンーン・バイチマン  
団体 朝日新聞社、岩波書店、共同通信社、国立国会図書館、同志社アームズクラブ、新潟日報社、いがた文化の記憶館、日本大学、文藝春秋、北海道新聞社、毎日新聞社、株式会社ブルボン

高橋義樹、ドナルド・キーンの太平洋戦争  
太平洋戦争終戦前夜、ハワイ日本兵捕虜収容所では何が行われていたのかほとんど知られていない。高橋義樹(筆名堀川潭)の著作はそれらの事実を明らかにする。



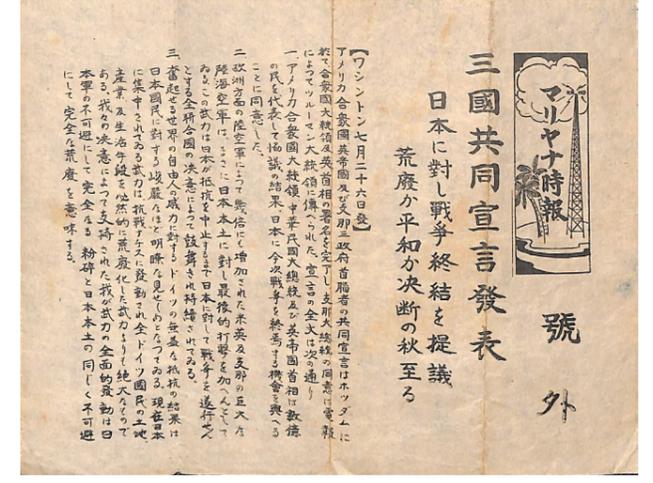
## 高橋義樹(筆名 堀川潭)の著作

高橋義樹は復員後、自らが体験した壮絶な太平洋戦争の記憶を堀川潭の筆名でノンフィクションや自伝的小説として発表しました。その一作に、早期終戦を目指す活動を描いた「真珠湾・終戦前後」があり、さらには、ドナルド・キーンが自伝で「戦場のエロイカ・シンフォニー」と綴る捕虜収容所のシャワールームで聞いたレコード音楽会が捕虜の目にどのように映ったかを心理描写を交えて描いた「第三交響曲」があります。  
日本留学で京都に滞在していたドナルド・キーンは、その読後感を手紙に書いて高橋義樹に送りました。音楽会で捕虜の感情を探ろうとしたのではないかと疑念を抱く主人公に、音楽は国境を越えると考えていたドナルド・キーンは、「私の動機は純粋であったので貴方以外の捕虜に、通じたかもしれません」、「貴方が私の誠意を疑ったことを残念に思います」と綴っています。これは、捕虜という存在は相互不信を生み、人間性を失っていく精神の地獄であることを示唆する重要な書簡です。  
この手紙をきっかけに、ドナルド・キーンと高橋義樹の新たな交流が始まります。ドナルド・キーンの「文学の世界」をジャーナリスト、高橋義樹が新聞を通して発信していったのです。この事実は、米軍将校であったドナルド・キーンと捕虜であった高橋義樹の間に心の交流が甦っていったことを裏付けます。それら一連の資料群は、一つの時代を映す貴重な資料であり、歴史の闇に埋もれさせてはならないのです。



## ハワイ日本兵捕虜収容所では

米軍将校オーテス・ケリーやドナルド・キーンは、「捕虜は恥ではない」と日本兵を懸命に説得し、「人は国を超えて同じ」であると言い、「人間主義」の信念のもとに「生き直し」「学び直し」の寺子屋まで開いたのです。日本人捕虜に「人間」を取り戻してほしいと考えていたオーテス・ケリーやドナルド・キーンの熱い思いがそこにはありました。敵味方を越えた心の交流が生まれていったのです。  
終戦前夜の捕虜収容所で、歴史を動かす一つの活動が開始されました。米軍将校と日本人捕虜が協力し、新聞形式のピラ、「マリヤナ時報」を作成して早期終戦を促す活動でした。日本の上空から撒かれた「日本の皆様」と呼びかけるピラは、昭和天皇に終戦の聖断を決意させた歴史的資料であると言えます。もちろんこの活動に参加していた仲間を、「裏切り者」「売国奴」と呼ぶ捕虜たちもいました。そこには、「祖国愛とは」「日本人とは」を問う大きな問題が横たわっています。これは、今日においても問われる問題です。



## ドナルド・キーン・センター 柏崎

DONALD KEENE CENTER KASHIWAZAKI  
新潟県柏崎市諏訪町 10-17 TEL 0257-28-5755  
www.donaldkeenecenter.jp/



開館時間：10時～17時(入館は16時30分まで)  
休館日：毎週月曜日・火曜日  
入館料：大人 500円・中高生 200円・小学生 100円  
(入館料にて企画展を観覧できます。)



展示概要

# 高橋義樹、ドナルド・キーンの太平洋戦争

高橋義樹（筆名 堀川潭<sup>ほりかわたん</sup>）の太平洋戦争に関する著作は、癒しがたい戦争の傷や人間性の破壊を痛烈に訴えかけている。中でも、太平洋戦争終戦前夜のハワイ日本兵捕虜収容所で行われていた、ほとんど知られていない事実を明らかにする著作は、歴史的にも、文学的にも貴重な資料である。

それは、一人の力では抗えない戦争の中で、平和な明日を切り拓きたいと望んで行動した日米の青年たちの知られざる歴史の一ページである。

当センターでは、この機会に、ドナルド・キーンの日本文学研究の一つの原点、太平洋戦争を見つめなおすと同時に、ハワイ日本兵捕虜収容所で出会ったドナルド・キーンと高橋義樹の二人の人生に秘められたエピソードを通して、戦争と人間を見つめたいと思います。



高橋義樹  
1917 - 1979  
島根県出身 作家・ジャーナリスト  
(戦前：同盟通信社、戦後：共同通信社)



「祝出征高橋義樹君」と墨書きされた日国旗  
(伊藤整の墨書がある)

Exhibition 1 展示

## 高橋義樹・青年時代(太平洋戦争以前) 師と仰いだ伊藤整との出会いと交流

文学青年高橋義樹上京 ―伊藤整の作品「幽鬼の街」に感動―  
同盟通信社の記者から海軍報道班員へ

1938年 (昭和13)  
1944年 (昭和19)

Exhibition 2 展示

## 玉砕の島々 サイパン、グアムの悲壮な戦場

サイパン島の玉砕  
グアム島の玉砕  
逃避行、「運命の卵」―米軍の捕虜となりハワイ日本兵収容所へ―

1944年 (昭和19) 7月  
1944年 (昭和19) 8月  
1944年 (昭和19) 11月

Exhibition 3 展示

## 終戦前夜のハワイ捕虜収容所 ドナルド・キーンの尋問 戦場のエロイカ・シンフォニー

ハワイ、イロコア・ポイント捕虜収容所  
米海軍情報将校ドナルド・キーンの尋問  
シャワールームでのレコード音楽会「戦場のエロイカ・シンフォニー」

1944年 (昭和19) 11月  
1944年 (昭和19) 12月  
1945年 (昭和20) 1月



日本兵捕虜を尋問するドナルド・キーン (沖縄戦)



ベートーベン作曲「交響曲第三番 英雄」のレコードジャケット (高橋義樹が日本に帰還した後に購入したもの)

Exhibition 4 展示

## 終戦前夜のハワイ捕虜収容所 終戦を促したピラ「マリヤナ時報」の作成

にいがた文化の記憶館2014年度企画展「終戦を促した祖国愛 米軍将校と日本兵捕虜」  
「捕虜になった記者 小柳胖<sup>こやうわたか</sup>たちの戦後」と題した連載企画 (新潟日報) 2017年  
「マリヤナ時報」の作成  
米海軍情報将校オーテス・ケーリと日本兵捕虜の間に生まれていった心の交流  
収容所内で計画された早期終戦促進活動  
捕虜たちが制定した「憲法」  
ポツダム宣言の内容を知らせる「マリヤナ時報」号外  
「三国共同宣言発表 日本に対し戦争終結を提議」  
日本は黙殺、アメリカは広島へ原爆投下  
長崎への原爆投下、条件(国体の護持) 付き受諾  
宣言受諾を巡る日米の和平交渉の内実を伝え、無条件降伏を進めるためのピラ「日本の皆様」  
聖断



オーテス・ケーリ  
1944年7月パールハーバーで

Exhibition 6 展示

## 「第三交響曲」が生み出した ドナルド・キーンとの再会・交流

「運命の卵」、「第三交響曲」、「真珠湾・終戦前夜」  
ドナルド・キーン、「第三交響曲」の読書評を手紙で送る  
二人が東京・銀座で偶然の再会  
再会の写真のお礼を述べたドナルド・キーンの手紙  
雑誌「中央公論」5月号 高橋義樹の返答  
国際ペンクラブ日本大会  
短篇集「運命の卵」出版  
ドナルド・キーンから高橋義樹への手紙  
ドナルド・キーンと伊藤整の対談 於ニューヨーク  
共同通信 特信文化部から配信されたドナルド・キーンの特稿記事

1954年 (昭和29) 2月22日  
1954年 (昭和29) 4月1日  
1954年 (昭和29) 8月8日  
1955年 (昭和30) 9月1日〜8日  
1957年 (昭和32) 10月  
1957年 (昭和32) 12月14日  
1960年 (昭和35) 12月10日  
1961年 (昭和36) 1月



再会を祝し新宿で (撮影：藤本四八)



ニューヨークで対談する二人



国際ペンクラブ日本大会  
(左 ドナルド・キーン、右 高橋義樹)

Exhibition 7 展示

## 師に捧ぐ『伊藤整氏との三十年』

「伊藤整氏との三十年」〜「文藝生活」(28号〜51号) 7年間の長期連載〜



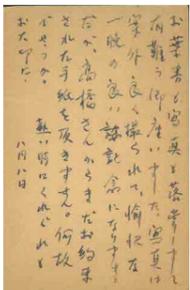
堀川潭著『伊藤整氏との三十年』  
新文化社 1980年 (昭和55)



高橋義樹の長女を抱く伊藤整



ドナルド・キーンが高橋義樹に宛てた葉書き  
1954年 (昭和29) 8月8日



ドナルド・キーンが高橋義樹に宛てた手紙  
1957年 (昭和32) 12月14日

## 終戦早めた対日宣伝ピラ



宣言受諾を巡る日米の和平交渉の内実を伝え、  
無条件降伏を勧めるためのピラ「日本の皆様」